

現代世界解析講座XV 2022年 秋学期

世界史の転換期に立つ日本の進路を考える

日本は21世紀に入って3.11(東日本大震災)とコロナ・パンデミックの2つの試練に直面し、さらに2022年、ウクライナ危機という世界史的転換点に直面している。

21世紀日本の進路に向けて、「外は広く、内は深い」という視界を取り戻したい。

寺島 実郎



監修 テラシマ ジョウロウ
寺島 実郎
多摩大学 学長
(一財)日本総合研究所 会長

PROFILE

1947年北海道生まれ。早稲田大学大学院政治学専攻修士課程修了後、三井物産入社。米国三井物産ワシントン事務所長、三井物産常務執行役員、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授等を歴任し、現在、文部科学省 日中韓大学間交流・連携推進会議委員、経済産業省 資源エネルギー庁総合資源エネルギー調査会基本政策分科会委員、国土交通省 国土審議会計画推進部会委員等兼任。1994年石橋湛山賞受賞。2010年4月早稲田大学名誉博士学位。近著に、『人間と宗教 あるいは日本人の心の基軸』(岩波書店)、『(寺島実郎監修)全47都道府県幸福度ランキング2022年版』(日経出版)、『日本再生の基軸 平成の晩鐘と令和の本質的課題』(岩波書店)、『(佐高信共著)戦後日本を生き残る世代は何を残すべきかわれらの持つべき視界と覚悟』(河出書房新社)。その他に、主な著書は、『ジェロントロジー宣言 「知の再武装」で100歳人生を生き抜く』(NHK出版新書)、『ひとはなぜ戦争をするのか 脳力のレッスンV』(岩波書店)、『ユニオンジャックの矢 大英帝国のネットワーク戦略』(NHK出版)、『シルバー・デモクラシー 戦後世代の覚悟と責任』(岩波新書)、『寺島実郎 中東・エネルギー・地政学—全体知への体験的接近』(東洋経済新報社)、『二十世紀と格闘した先人たち—一九〇〇年 アジア・アメリカの興隆』(新潮社)、『何のために働くのか—自分を創る生き方』(文春新書)、他多数。

第1回 2022年9月29日(木)

「コロナ、ウクライナ危機を超えて—2022年秋の意味」

講師 テラシマ ジョウロウ
寺島 実郎
多摩大学 学長
(一財)日本総合研究所 会長

第2回 2022年10月6日(木)

「内憂外患、習政権三期目の政策課題—ポスト安倍の日中関係の新動向」



講師 コウ リョウ
柯 隆
東京財団政策研究所 主席研究員

PROFILE

1963年中国南京市生まれ。1988年留学のため来日。1992年愛知大学法経学部卒業。1994年名古屋大学大学院修士課程修了(経済学)。同年、長銀総合研究所研究員、1998年富士通総合経済研究所主任研究員、2006年同主席研究員、2018年東京財団政策研究所主席研究員。静岡県立大学グローバル地域センター特任教授、多摩大学客員教授、海外投融資情報財団フェロー、国際経済交流財団 Japan Spotlight 編集委員を兼任。著書に『ネオ・チャイナリスク研究』(2021年、慶應義塾大学出版会)、『中国「強国復権」の条件』(2018年、慶應義塾大学出版会、第13回榎山純三賞受賞)ほか。

第3回 2022年10月13日(木)

「ユーラシア地政学から考える朝鮮半島と日本」



講師 キム ミツク
金 美徳
多摩大学 経営情報学部及び大学院経営情報学専攻 教授

PROFILE

兵庫県出身。早稲田大学大学院国際経営学修士・国際関係学博士課程修了。(株)三井物産戦略研究所を経て現職。『文科省・大学の世界展開力強化事業—日本・中国・韓国の大学間交流の枠組み強化—』『岡山大・吉林大・成均館大キャンパスアジア』推進メンバー5年間歴任。専門は、国際経営学・国際関係学。34年間の学会活動経験と国際情報ネットワークを駆使して研究・教育活動に取り組んでいる。業績は、『キャンパスアジア共通教科書 これからの日中韓経済学』など著書13冊、論文・論考200本、講演・メディア出演100件など。

第4回 2022年10月20日(木)

「ウクライナ問題の所在」



講師 コバヤシ アキナ
小林 昭菜
多摩大学 経営情報学部 准教授

PROFILE

専門は日ソ関係史、現代ロシア。ロシア科学アカデミー東洋学研究所研究員、米ピッツバーグ大学世界史センター派遣研究員を経て現職。著書に『シベリア抑留米ソ関係の中での変容』(単著、岩波書店)、『国際関係史から世界史へ』(共著、ミネルヴァ書房)、『ロシアの歴史を知るための50章』(共著、明石書店)など。

第5回 2022年10月27日(木)

「ポスト安倍政治の動向と今後の展望」



講師 カスヤ タカユキ
粕谷 賢之
日本テレビ放送網株式会社 取締役常務執行役員 報道局解説委員長

PROFILE

1983年、早稲田大学政治経済学部卒。同年入社。1985年、政治部。中曽根内閣から橋本内閣まで取材。1998年、ロンドン支局長。ブレア政権、コソボ紛争取材。2001年、国会・官邸キャブ(森・小泉内閣)。2003年、政治部長。「news every」、「news zero」、選挙特番等で解説。2012年、報道局長・解説委員長。2016年、プーチン露大統領に単独インタビュー。2021年、現職。

第6回 2022年11月10日(木)

「『フェイクニュース』とファクトチェッカー—デジタル時代の情報収集のあり方—」



講師 フルタ ダイスケ
古田 大輔
ジャーナリスト、株式会社メディアコラボ 代表

PROFILE

早稲田大卒。朝日新聞記者、BuzzFeed Japan 創刊編集長を経て独立し、ジャーナリスト/メディアコンサルタントとして活動。2020年にGoogle News Lab ティーチングフェローに就任。ニューヨーク市立大「News Innovation and Leadership 2020」修了。

第7回 2022年11月17日(木)

「世界経済の行方と金融市場動向」



講師 マカベ アキオ
真壁 昭夫
多摩大学 特別招聘教授

PROFILE

1953年生まれ。1976年一橋大学商学部卒業。同年第一勧業銀行入行。1983年ロンドン大学経営学部大学院修士課程修了。みずほ総合研究所・研究本部主席研究員、信州大学大学院、慶應義塾大学、立教大学、法政大学大学院の教授等を経て、2022年より現職。日経CNBC『夜エクスプレス』のレギュラーコメンターを務めるほか、メディアにも多数出演。

第8回 2022年11月24日(木)

「世界認識の再構築—近代史の中での世界と日本を問い直す」

講師 テラシマ ジョウロウ
寺島 実郎
多摩大学 学長
(一財)日本総合研究所 会長

第9回 2022年12月1日(木)

「大国間競争時代の米国の戦略」



講師 ワタナベ ツネオ
渡部 恒雄
笹川平和財団 上席研究員

PROFILE

1963年福島県出身。東北大学歯学部卒。1995年ニュースクール大学(NY)で政治学修士課程修了。同年、ワシントンのCSIS(戦略国際問題研究所)に入所。03年に上級研究員。05年帰国。三井物産戦略研究所主任研究員、東京財団上席研究員を経て、16年10月に笹川平和財団に移籍。17年10月より現職。著書に『デジタル国家ウクライナはロシアに勝利するか?』(共著、日経BP、2022)、『防衛外交とは何か』(共編著、勁草書房、2021)、『2021年以降の世界秩序』(新潮新書、2020)。

第10回 2022年12月8日(木)

「環境革命の時代に—持続可能な未来づくり=自然共生文明へ—」



講師 フクイ マサユキ
涌井 雅之
造国家・ランドスケープアーキテクト、東京都市大学 特別教授

PROFILE

1945年神奈川県鎌倉市出身。造国家・ランドスケープアーキテクトとして「景観十年、風景百年、風土千年」と唱え、人と自然の空間的共存を数多くの作品や計画に反映させている。今という時代を「環境革命」の時代と捉え、「地球は囲われたエデン」であると説く。2005年、愛・地球博の会場演出総合プロデューサーを務める。2013年4月より、岐阜県立森林文化アカデミー学長。

第11回 2022年12月15日(木)

「循環型社会としての江戸時代」



講師 タナカ ユウコ
田中 優子
法政大学 名誉教授・前総長

PROFILE

1952年横浜生まれ。専門は江戸時代の文学、生活文化、中国文学を中心とした東アジアと江戸文化の比較研究、布や生活文化のインド・東南アジアとの比較研究。江戸時代の価値観から見た現代社会の問題に言及することも多い。1986年度芸術選奨文部大臣新人賞、2000年度芸術選奨文部科学大臣賞、2001年度サントリー学芸賞、2005年に紫綬褒章。2014年法政大学総長に就任、2021年度から現職。

第12回 2023年1月12日(木)

「2023年の世界展望と日本の在り方」

講師 テラシマ ジョウロウ
寺島 実郎
多摩大学 学長
(一財)日本総合研究所 会長